

山形県内で義務教育の学校教員はほとんどが公立学校の教員です。公務員や公所としての活動であり姿勢が求められます。

しかし私学は2010年(5・1)資料によれば高校の在学者の25%短大の93%大学の77%が私学です。

高等教育は私学在学者の方が多いのになんたるか詳しく知る人が少ないようです。私は東京の企業から最上地域いや県内初のコンピュータ専門学校を開設するために声をかけられて戻ってきたものです。

その経緯で当初連携を検討していた私立高校の教諭として勤務し日本史、現代社会の授業をし、普通科の担任をしました。幸か不幸か私学二校は連携することが無く、私も公立校に勤務し直しました。

その際私学についての検討の場にいたり、考えさせられたりしました。

一言で言えば私学は公教育とは違い、国民や県民全員の利益に奉仕するものでなく、基準を守れば他はかなり自由度があります。

私学ごとに違うと言えはそれまでです。しかし学ぶ人達が高等教育の大半を占める割合なのです。

私学について知らない事は大半の高等教育の現場を知らないことになります。私学について知っておく必要はあるでしょう。



私立学校の特徴 文部科学省HPより

我が国の学校教育の発展を、質・量の両面で支えています

教育の裾野を広げています
大学・短期大学の8割、高等学校の3割、幼稚園の9割の学生・児童生徒が、私立学校に通っています。

多様で特色のある教育研究を展開しています
各私立学校が、独自の「建学の精神」に基づいて、個性豊かな教育研究活動を積極的に展開しています。

文部科学省では、私立学校の振興を進めています

